

《担当者名》 池森 康裕 sr528@hoku-iryo-u.ac.jp 岡橋 智恵(衛)

【概要】

利用者の尊厳保持と自立(律)した生活を支える観点から、必要な知識と技術を学ぶ。特に身じたく(衣服の着脱含む)と食事の知識と生活支援技術について学ぶ。

【学修目標】

1. ICFの視点に基づいて、自立に向けた身じたく(衣服の着脱含む)の介護ができる。
2. 食事の意義と目的について理解し、自立に向けた食事の介護ができる。
3. 口腔ケアの意義を理解し、適切なブラッシングの介護ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 自立に向けた身じたくの介護	この科目で学ぶこと - 科目の位置づけを理解する。 身じたくの意義と目的を理解して、説明できる。 (身体的、心理的、社会・文化的意義と目的)	池森
2	自立に向けた身じたくの介護	自立に向けた身じたく介護の視点を理解して、説明できる。	池森
3	身じたくの介護の基本となる知識と技術	利用者の状態に応じた身じたく介護を理解し、説明・実施できる。(洗面、スキンケア、整髪、ひげの手入れ、爪・耳の手入れ化粧など)	池森
4	身じたくの介護の基本となる知識と技術	利用者の状態に応じた身じたく介護を理解し、説明できる。(口腔ケアとアイスマッサージ)	池森
5	身じたくの介護の基本となる知識と技術	口腔ケアの方法と全身への効果を理解し、説明できる。 義歯の種類と清掃法を理解し説明できる。	池森
6	自立に向けた衣服の介護	衣服着脱の意義と目的を理解し説明できる。 (身体的、心理的、社会・文化的意義と目的)	池森
7	自立に向けた衣服の介護	対象者に応じた更衣の留意点を理解し説明・実施できる。 (座位での着脱介助、前開きと被り物)	池森
8	自立に向けた衣服の介護	対象者に応じた安全・安心な更衣介護を理解し、プライバシーに配慮した技術を行える。(座位)	池森
9	自立に向けた衣服の介護	対象者に応じた更衣の留意点を理解し説明・実施できる。 (仰臥位での着脱介助)	池森
10	自立に向けた衣服の介護	対象者に応じた安全・安心な更衣の介護を理解し、プライバシーに配慮した技術を行える。(仰臥位)	池森
11	自立に向けた衣服の介護	感覚・運動・認知・知的機能が低下している人の着脱方法を理解し、説明・実施できる。	池森
12	対象者に応じた介護 右片麻痺の高齢者介護	感覚・運動・高次脳機能が低下している人の着脱方法を理解し、説明・実施できる。(事例A)	池森
13	対象者に応じた介護 左片麻痺の高齢者介護	感覚・運動・認知・知的機能が低下している人の着脱方法を理解し、説明・実施できる。(事例B)	池森
14	対象者に応じた介護	感覚・運動・高次脳機能が低下している人の着脱方法を理解し、説明・実施できる。(事例A)	池森
15	多職種連携 まとめ	身じたく(衣服の着脱)介護における、他職種連携	池森

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
16	自立に向けた食事の介護	食事の意義と目的を理解し説明できる。 (身体的、心理的、社会・文化的意義と目的)	池森
17	自立に向けた食事の視点	おいしく食べることを支える用具の活用と環境整備を理解し説明できる。	池森
18	食事介護の基本となる知識と技術	食事中の事故防止と対応について理解し、説明ができる。 (誤嚥、窒息、脱水、感染症への対応など)	池森
19	脱水予防	脱水が起こる要因と予防を理解し、説明ができる。	池森
20	低栄養予防	高齢者にとって望ましい食生活と自助具の使用方法について理解し、説明ができる。	池森
21	食事介護演習	食事の全介助が必要な人の介護方法を理解し、実施できる。	池森
22	食事介護演習	食事の全介助が必要な人の介護方法を理解し、実施できる。	池森
23	対象者に応じた介護 右片麻痺の高齢者介護	感覚・運動・高次脳機能が低下している人の食事介護の方法を理解し、説明・実施できる。(事例A)	池森
24	対象者に応じた介護 左片麻痺の高齢者介護	感覚・運動・認知・知的機能が低下している人の食事介護を理解し、説明・実施できる。(事例B)	池森
25	口腔ケア (口腔内の清潔)	口腔の特徴としくみについて理解する。 歯科の2大疾患であるう蝕と歯周疾患について理解する。 唾液の働きについて理解する。	岡橋
26	口腔ケア (口腔内の清潔)	効率のよい歯磨きの仕方を習得する。 口腔ケアのための器具を選択できる。 デンタルフロスの使用方法を習得する。	岡橋
27	口腔ケア (口腔内の清潔)	要介護高齢者の口腔の特徴を理解する。 口腔ケア用品の使用方法を理解する。 義歯の適切な取り扱い方法について学び、正しいブラッシングを実践する。	岡橋
28	口腔ケア (口腔内の清潔)	相互実習によりブラッシングの介助方法を習得する。	岡橋
29	口腔ケア (口腔内の清潔)	相互実習によりベッド上でのブラッシング介助方法を習得する	岡橋
30	まとめ	食事の介助における、他職種との連携を理解し、説明できる。	池森

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

筆記試験50%、実技試験50%

【教科書】

介護福祉士養成講座編集委員編集：最新・介護福祉士養成講座7 『生活支援技術 第2版』 中央法規 2022

【参考書】

介護福祉士養成講座編集委員編集：最新・介護福祉士養成講座6 『生活支援技術 第2版』 中央法規 2022

介護福祉士養成講座編集委員会編集：最新・介護福祉士養成講座14 『こころとからだのしくみ 第2版』 中央法規 2022

【備考】

この科目は、介護福祉士国家試験受験資格取得のための「生活支援技術」に該当する。

【学修の準備】

1. 演習では動きやすい服装と上靴を準備すること。
2. 腕時計、イヤリングなどのアクセサリは外すこと。
3. スカートや外靴では演習を受けられないので注意すること。
4. 講義・演習で渡した資料はファイルに保管して、毎回持参すること。
5. 演習を行う上では、次回の内容を事前にシラバスで確認し教科書を一読しておくこと。（予習）
6. 演習で行った生活支援技術の内容について、テストを振り返り技術内容の根拠を明確に理解すること。（復習）
予習：2時間 復習：2時間

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2：福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP1. 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP3：社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP4. 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

【留意事項】

演習時は、学生同士のグループで進めていくので、遅刻・欠席は他の学生へ影響を及ぼしかねない。

1. 遅刻、早退、欠席は極力避けること。
2. 15分以上の遅刻・早退は欠席扱いとする。
3. 遅刻・早退3回で1回の欠席としてカウントするので注意すること。

【実務経験】

池森康裕（介護福祉士）、岡橋智恵（歯科衛生士）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床および地域での介護分野の専門職として、実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。
歯科医院での歯科衛生士としての実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。